

県営ほ場整備事業(上戸地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

珠洲市

# 南 方 遺 跡

2 0 0 5

石 川 県 教 育 委 員 会

(財)石川県埋蔵文化財センター

<sup>みなみ</sup>南 <sup>かた</sup>方 遺 跡

2005

石川 県 教 育 委 員 会

(財)石川県埋蔵文化財センター

## 例 言

- 1 本書は南方遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は珠洲市上戸町南方地内である。
- 3 調査原因は県営ほ場整備事業（上戸地区南方工区）であり、同事業を所管する石川県農林水産部農業基盤整備課（旧農地整備課、以下略）が石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は財団法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成13（2001）年度から平成16（2004）年度に実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。
- 5 調査に係る費用は、石川県農林水産部農業基盤整備課と、文化庁の補助を受けて石川県教育委員会が負担した。
- 6 現地調査は平成13（2001）年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者は下記のとおりである。  
期 間 平成13（2001）年8月3日～同年9月5日  
面 積 260㎡  
担当課 調査部調査第2課  
担当者 宮川勝次（主事）、加藤克郎（主事）
- 7 出土品整理は平成15（2003）年度に実施し、企画部整理課が担当した。
- 8 報告書の刊行は平成16（2004）年度に実施し、調査部調査第2課が担当した。  
執筆・編集は宮川（調査部調査第3課主事）が行った。
- 9 調査には下記の機関、個人の協力を得た。  
石川県農林水産部農業基盤整備課、珠洲市教育委員会
- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。
  - (1) 挿図中の方位は磁北をさす。
  - (2) 水平基準は海拔高であり、T. P.（東京湾平均海面標高）による。
  - (3) 出土遺物番号は挿図と写真で対応する。

## 目 次

第1章 調査の経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第3節 出土品整理・報告書刊行	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 遺跡の位置と地理的環境	3
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	8
第1節 調査区の設定	8
第2節 基本層序	8
第3節 遺構と遺物	8
第4節 ま と め	9

## 挿 図 目 次

第1図 調査区周辺と位置図 (S=1/5,000)	2	第5図 出土土器実測図 (S=1/3)	11
第2図 遺跡の位置図	3	第6図 出土木製品実測図1 (S=1/3・1/6)	12
第3図 周辺の遺跡 (S=1/25,000)	6	第7図 出土木製品実測図2 (S=1/3)	13
第4図 調査区全体図 (S=1/200)			
土層断面図 (S=1/60)	10		

## 表 目 次

第1表 周辺の遺跡一覧	7	第3表 木製品観察表	14
第2表 土器観察表	14		

## 写 真 図 版

図版1 4区 遺物出土状況	図版4 12区 調査区東壁土層断面(西から)
6区 遺物出土状況	3～5区 完掘状況(南から)
図版2 1区 調査区東壁土層断面(西から)	図版5 6～7区 完掘状況(北から)
3区 調査区東壁土層断面(西から)	9～12区 完掘状況(南から)
図版3 6～7区 調査区東壁土層断面(西から)	図版6 出土遺物写真
9区 調査区東壁土層断面(西から)	図版7 出土遺物写真
	図版8 出土遺物写真

# 第1章 調査に至る経緯と経過

## 第1節 調査に至る経緯

南方遺跡の発掘調査は、珠洲市上戸町南方地内における県営ほ場整備事業（上戸地区南方工区）に係るものである。同事業計画に伴い、石川県教育委員会文化財課と石川県農林水産部農地整備課（現農業基盤整備課）との間で協議が行われ、事前に試掘調査を行うこととなった。試掘調査は平成13(2001)年2月20日～22日に約14haを対象に行われ、調査区域の一部で埋蔵文化財を確認し、本遺跡はその際、新たに発見された遺跡である。そこで、県教育委員会文化財課は農地整備課と協議の上、工事着手前に発掘調査を実施することとなった。

本遺跡の発掘調査は、平成13(2001)年度に石川県教育委員会から財団法人石川県埋蔵文化財センターに委託され、排水路建設工事に伴い遺跡が損壊を受ける260㎡を対象に実施した。

## 第2節 調査の経過

発掘調査は財団法人石川県埋蔵文化財センター調査部調査第2課宮川勝次、加藤克郎が担当し、平成13(2001)年8月3日～同年9月5日にかけて実施した。

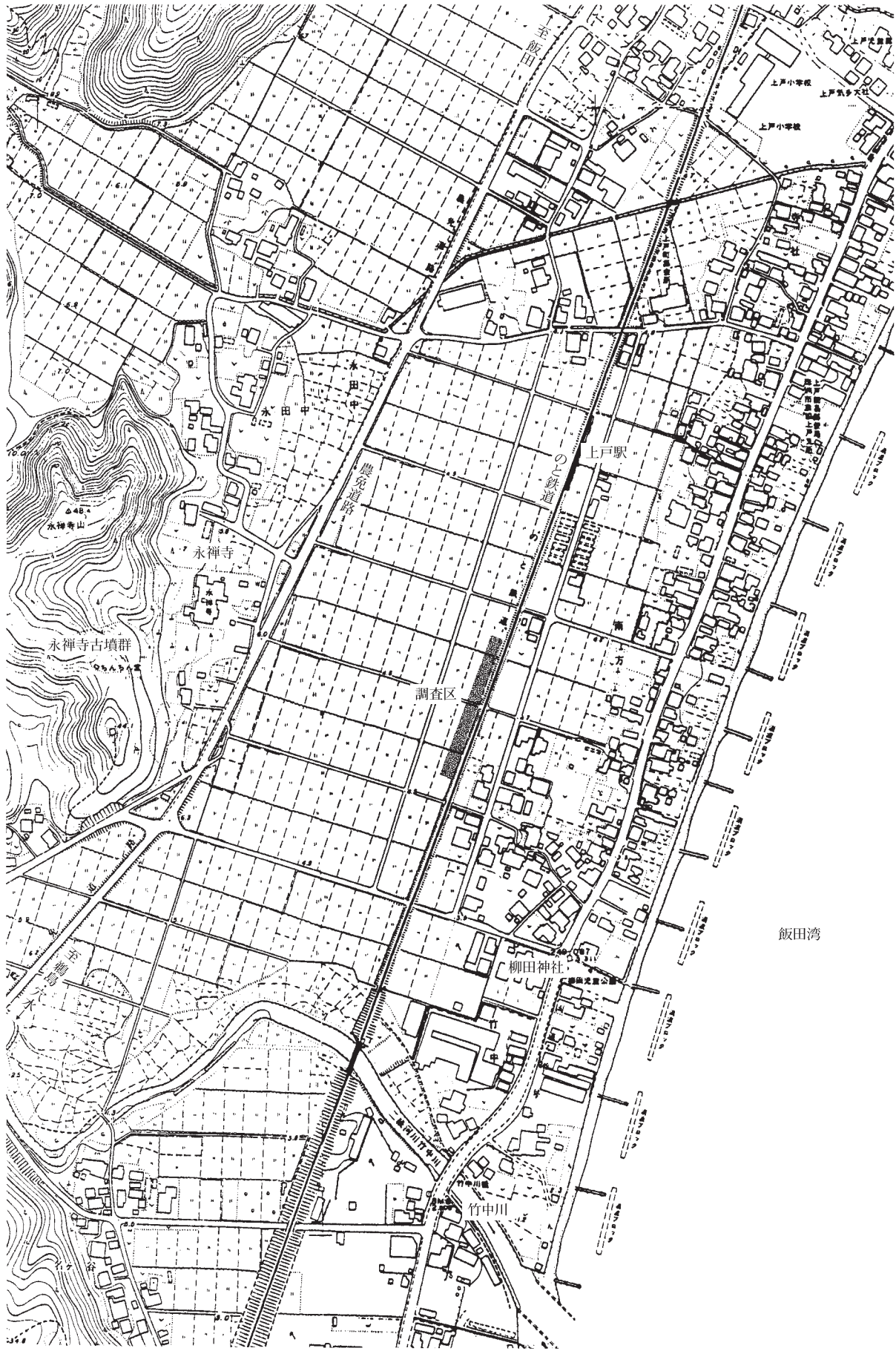
8月3日(金)に発掘機材を搬入し、6日(月)に重機による表土除去作業を行う。7日(火)からは調査区内の湧水が激しいことから排水溝掘削を行い、その後、グリッド杭打ち作業に入る。8日(水)からは遺構検出作業を開始し、一定量の須恵器、土師器、珠洲焼、用途不明の部材が出土する。遺構は希薄である。また、湧水に悩まされ、一晩おくと調査区内がプール状態になることから、1グリッド毎に絞って掘削作業を行い、作業の効率を図る。

13日(月)～15日(水)のお盆休み後、16日(木)から作業を再開する。5～7区、9～12区の遺構検出作業を行い、4～7区にかけては他に比べて遺物量が多い事を確認する。20日(月)からは作業員を追加し、さらに作業ペースを速める。22日(水)からは9～12区の調査区平面図、東壁土層断面図実測、完掘写真撮影を行い、当グリッドの作業は終了する。23日(木)からは5～7区の遺構掘削作業と並行して、1～4区の遺構検出作業を行い、28日(火)からは1～7区の平面図等の実測作業を行い、9月5日(水)に発掘機材を撤収し、作業を終了した。

## 第3節 出土品整理・報告書刊行

出土品整理は、企画部整理課において、平成15(2003)年度から実施した。平成15年度に土器等の洗浄を行い、平成16年1月16日からは記名・分類・接合に着手し、1月20日から出土品の実測・トレース作業、1月27日に遺構図トレースを行い、終了した。

報告書刊行業務は、平成16年度に原稿執筆、図版作成、出土品の写真撮影、編集・校正作業を行い、報告書の刊行に至る。



第1図 調査区周辺と位置図 (S=1/5,000)

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 遺跡の位置と地理的環境

南方遺跡は石川県珠洲市上戸町南方地内に所在する。珠洲市は県の先端部、日本海に突出した能登半島の北東端に立地しており、北・東・南の三方は日本海に面し、西から南西方にかけては輪島市、能登町と接する。総面積は247.19平方km、その内訳は山林約58%、田畑約35%、宅地約5%である。人口は20,474人(平成15年)である。

市周辺の地形は宝立山地、奥能登丘陵、海成段丘群、沖積低地に大別でき、市域の大部分を山地と丘陵が占めている。宝立山地は宝立山(標高468.6m)を最高峰とする、標高300~400mの比較的良く開析された低山性の小起伏山地であり、地質的には新第三紀の火山岩類と堆積岩からなる。奥能登丘陵は、宝立山地の東南側をとりまくように分布し、大部分が標高250m以下の丘陵地であり、地質的には新第三系の諸岩層から成っている。

海成段丘は第四紀更新世後期に形成された中位段丘とみられるものであり、段丘面の海拔高度は20~60mである。段丘面は薄い砂質もしくは砂礫質であるが、埋積谷部分ではやや厚い泥質の堆積物がみられ、半島先端部から市南部にかけての海側に連続的に分布する。河成段丘は若山川、鶴飼川にみられるが、特に若山川下流部に広く分布しており、高低2段にわたって発達している所が多い。低地は谷底平野・扇状地、海岸平野・三角州、砂丘がみられるが、分布の割合は低い。谷底平野・扇状地は若山川、竹中川、盤若川、鶴飼川の各河川流域に分布しており、その大部分は谷底平野が占める。海岸平野は砂丘もしくは砂洲の発達により形成された潟が埋積したものであり、海岸沿いに広く分布している。砂丘は若山川の東側と半島先端部に分布しており、浜(砂礫で覆われた平坦地)は極くわずかであるが存在している。

南方遺跡は市中心部から少し南寄りの水田地帯に所在し、北西方は宝立山地をとりまく丘陵が広がり、東方は飯田湾に面し、南方は竹中川が東流し日本海に注いでいる。遺跡は竹中川下流域に位置しており、周辺には縄文時代から近世の遺跡が存在する。また、当遺跡から南東約100mには南方の産土神である柳田神社が鎮座しており、北約1kmには上戸気多神社、その別当寺である高照寺が所在する。高照寺門前には県指定記念物である倒スギが存在する。



第2図 遺跡の位置図

## 第2節 歴史的環境

珠洲の歴史において、人々の営みが確認できる最初の痕跡は、若山川流域の若山町井林や三崎町雲津から出土した尖頭器であり、これらは、旧石器時代晩期もしくは縄文時代草創期の所産と考えられている。その後、高波ふるや遺跡が伏見川流域に縄文時代前期末から後期中葉にかけて存続し、貝塚も確認されている。鵜飼川流域では中期前葉から遺跡が形成され始めており、中期後葉まで存続していたと考えられる郷釜の前遺跡や中期後葉から後期前葉にかけての土器が出土している柏原垣内高瀬畑遺跡(73)等が所在する。盤若川上流の台地上には加護天池遺跡が立地しており、中期末葉から後期初頭にかけての土器が出土している。ほとんどの遺跡が丘陵地に立地しているが、縄文海進、弥生海退に移る転換期を経て、後期以降、沖積平野部にも進出し始める。後期中葉から後葉を主体とする鵜島どうがくち遺跡や晩期まで存続した北方山岸遺跡(19)等がある。

弥生時代は縄文時代、後の古墳時代に比べて遺跡数は少なく、櫛描文土器が出土した高波フルヤ遺跡の他は、大半が後期もしくは終末期に属する遺跡である。若山川流域の出田遺跡(3)や経念遺跡、鵜飼川流域の柏原ミツハシ遺跡(67)等がある。

古墳時代に入り、弥生時代に伝わったとされる稲作の普及により水田開発に伴う水利権の利害関係を生み出し、それらをめぐり、有力な支配者層が地域統合を進めるなかで、やがて古墳群を築造し始めるようになる。若山川左岸の丘陵部を中心に、総数150基確認されている。5世紀末頃から築造された永禪寺古墳群(36)は竹中川北岸に派生した丘陵上に分布しており、調査が行われた1号墳と2号墳は共に組合せ式箱型石棺が埋置されており、棺内からは刀剣類の他、胡籙(1号墳)が出土している。6世紀後半頃からは横穴群が急増し、現在、確認されているもので200基にも上る。これらは若山川、盤若川等の各河川によって形成された谷平野ごとにまとまって分布しており、その大半が飯田湾側に存在する。竹中川下流域の永禪寺横穴群(38)、盤若川下流域の谷崎横穴群(54)、珠洲地域の横穴分布の南限に位置する南黒丸、鵜島地域には南黒丸八幡A横穴群、南黒丸八幡B横穴群、鵜島横穴群が分布している。7世紀に入ると、竹中川と盤若川の間丘陵に大畠古墳群(50)、大畠南古墳群(49)が分布する。大畠1号墳は横穴式石室を有し、石室内からは鍍金した鞘金具を持つ刀、金環等が出土しており、4号墳からは金銅装双竜式環頭大刀が出土している。また、大畠南古墳群でも横穴式石室がみとめられ、須恵器や土師器が出土している。

古代に入ると、これまで越前国の一部であった珠洲郡は、養老2年(718年)5月 羽咋・能登・鳳至の三郡とともに能登国となり(「続日本紀」)、日置・草見・若倭・大豆の四郷と余戸で構成され始める。そのうち、現地域の比定地がほぼ確実視されているのは若山川下流域とする若倭郷だけであるが、その他も同様に、河川流域を中心に設置されていたと考えられ、若山川下流域には官衙関連遺跡と考えられている北方E遺跡(22)が存在している。また、古墳時代中頃から平安時代後期にかけての能登半島は日本海側有数の土器製塩地帯であり、珠洲地域においても、市北端部の三崎町周辺を中心に製塩遺跡が分布する。粟津カンジャバタケ遺跡、森腰遺跡、宇治役場裏遺跡、鵜島遺跡等が知られる。

中世の珠洲地域は承久3年(1221年)作成の「國中四郡庄郷保公田々数目録」によれば、若山庄・珠珠正院・蔵見村・高屋浦・方上保等の庄・院・村の所領となっており、特に若山庄は能登国最大規模をほこっていた。若山庄の成立は11世紀末に能登国司に着任した源俊兼とその子季兼が私領化した土地を、康治2年(1143年)、崇徳上皇の後藤原聖子に寄進したことによる。その寄進状によると「南は珠珠正院真脇村、北は同院八条袋、町野院境山、東は海をそれぞれ限る」とあり、庄域は八条袋の比定地については諸説があるため断定はできないが、現在の珠洲市域と南隣の鳳珠郡能登町(旧：珠洲郡内浦町)のほ



ば全域を比定できると考えられている。中世後期には、この若山庄は松波川流域の木郎郷、鶉飼川流域の直郷、若山川上・中流域の若山郷、若山川下流域の飯田郷、日本海沿岸に面した西海浦の四郷一浦から構成されていたとされる。

中世の珠洲地域で特筆される物の一つとして珠洲焼が知られ、若山郷等の各郷が深く関わっていたと考えられている。庄域には現在確認されている珠洲焼窯跡の大半が分布しており、庄園領家日野家の祈祷所である法住寺や白山神社が所在し、庄政所が置かれていたと思われる直郷では、法住寺寺域内から窯跡が確認されており、境内の林木伐採を禁止する旨を出して、燃料供給源を確保していることなどから、珠洲焼の生産や経営にあっていたことは想像に難くない。法住寺以外の地域でも、窯跡の所在するところには中世有力寺院が存在しており、それらが、何らかの形で生産・流通を担っていたのであろう。窯跡は市全域に散在しており、鶉飼川上流域に西方寺窯跡群、鳥屋尾垣内窯跡、柏原郷の前窯跡群、盤若川中流域には法住寺窯跡群、下流域には春日野大畠窯跡群(55)、海岸線から約2.5km内陸部には最古の窯跡である寺社カメワリ坂窯跡群(41)、能登半島北東部には寺家黒畑窯跡群、大屋ヒヤマ窯跡群、外浦側に唯一、所在する外浦馬縹亀ヶ谷窯跡がある。

集落遺跡として、南黒丸遺跡では13～14世紀代の掘立柱建物跡、井戸跡が多数確認され、柏原A遺跡(71)では14世紀を中心に集落が展開しており、また、飯田町遺跡(6)、柏原ミツハシ遺跡、柏原ジッチン遺跡(66)、鶉島遺跡等が知られる他、中世城郭である飯田城山遺跡(5)、正院川尻城跡がある。

## 参考文献

- 石川県教育委員会 1992 『石川県遺跡地図』  
 石川県農林水産部耕地整備課 1995 『土地分類基本調査 宝立山・能登飯田・珠洲岬』  
 石川県立博物館編 2000 『能登最大の中世荘園 若山荘を歩く』  
 伊藤雅文<sup>ほか</sup> 1993 『大畠南古墳群発掘調査』  
 珠洲市史編纂専門委員会編 1976 『珠洲市史第1巻』自然・考古・古代  
 珠洲市史編纂専門委員会編 1978 『珠洲市史第2巻』中世・寺院・歴史考古  
 珠洲市史編纂専門委員会編 1979 『珠洲市史第4巻』神社・製塩・民俗  
 珠洲市史編纂専門委員会編 1980 『珠洲市史第6巻』通史・個別研究  
 松山温代<sup>ほか</sup> 1995 『出田遺跡』  
 安 英樹<sup>ほか</sup> 1996 『経年遺跡』  
 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館



番号	遺跡番号	名称	所在地	立地	時代	出土品	備考
1	05107	野々江恒方屋敷遺跡	珠洲市野々江町	砂丘	縄文、中世	打製石斧、陶器	
2	05105	出田有政遺跡	珠洲市若山町出田	平地	古墳	須恵器、土師器	耕地整理中に発見。
3	05105	出田遺跡	珠洲市若山町出田	平地	弥生	弥生土器	1992年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
4	05104	飯田横穴群	珠洲市若山町出田	丘陵斜面	古墳		枝番号が2番までである。崩壊。
		飯田1号横穴					崩壊。
		飯田2号横穴					崩壊。
5	05103	飯田城山遺跡	珠洲市飯田町	山地	室町		
6	05102	飯田町遺跡	珠洲市飯田町	平地	平安、中世	珠洲焼、土師器	1989年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
7	05101	北方大門口遺跡	珠洲市上戸町北方	平地	縄文	磨製石斧、土器	
8	05099	日光社遺跡	珠洲市上戸町北方	平地	古墳、奈良、平安、中世		1992年珠洲市教委発掘調査。1992年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
9	05095	北方うれの遺跡	珠洲市上戸町北方	台地	縄文	磨製石斧	
10	05097	上戸陣ヶ平古墳群	珠洲市上戸町	丘陵	古墳		円墳5基。
11	05098	北方池の下B遺跡	珠洲市上戸町北方	台地	古墳	土師器	
12	05100	北方遺跡	珠洲市上戸町北方	平地	奈良、平安、中世	須恵器、土師器	旧北方日光社A～C遺跡を包括。1993、96、98年珠洲市教委発掘調査。
13	05252	北方C遺跡	珠洲市上戸町北方	平地	弥生、平安、江戸	弥生土器、土師器、珠洲焼、鉄滓	1997～98年珠洲市教育委員会発掘調査
14	05251	北方B遺跡	珠洲市上戸町北方	平地	弥生～近世	須恵器、土師器、珠洲焼、柱根	1996～97年珠洲市教育委員会発掘調査。2003年(財)石川県埋蔵文化財センター発掘調査。
15	05250	北方D遺跡	珠洲市上戸町北方	平地	古墳～古代	須恵器、土師器、珠洲焼、銅製耳飾	1997年珠洲市教育委員会発掘調査
16	05093	北方池の下遺跡	珠洲市上戸町北方	台地	縄文	磨製石斧、土器	2003年(財)石川県埋蔵文化財センター発掘調査。
17	05095	上戸大池古墳群	珠洲市上戸町	丘陵	古墳		
18	05094	あまきび焼窯跡	珠洲市上戸町寺社	平地	近世(江戸)		
19	05078	北方山岸遺跡	珠洲市上戸町北方	平地	縄文	土器(晩期)、磨製石斧、石鏃等	
20	05089	大定院遺跡	珠洲市上戸町北方	台地	不詳		
21	05090	北方山岸B遺跡	珠洲市上戸町北方	平地	奈良、平安	土師器	
22	05249	北方E遺跡	珠洲市上戸町北方	平地	古墳～古代	須恵器、土師器、土馬、紡錘車	1988年珠洲市教育委員会発掘調査。2003年(財)石川県埋蔵文化財センター発掘調査。
23	05088	永福寺遺跡	珠洲市上戸町北方	丘陵斜面	古墳	土師器	
24	05091	北方光貞遺跡	珠洲市上戸町北方	平地	縄文	打製石斧	
25	05092	北方光貞B遺跡	珠洲市上戸町北方	平地	古墳	土師器	
26	05085	寺社鳥居浜遺跡	珠洲市上戸町寺社	平地	縄文	磨製石斧	単独出土。
27	05087	寺社鳥居浜B遺跡	珠洲市上戸町寺社	平地	古墳	壺、人骨	
28	05085	寺社今社遺跡	珠洲市上戸町寺社	平地	奈良、平安、中世	灯明皿、陶質土器、土師器、須恵器	耕地整理の際発見。1997年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。2003年(財)石川県埋蔵文化財センター発掘調査。
29	記74	倒スギ	珠洲市上戸町寺社				県指定記念物
30	05247	高照寺墓地	珠洲市上戸町寺社	丘陵、畑	中世、近世	曲物、珠洲焼	2002年(財)石川県埋蔵文化財センター発掘調査。
31	05248	寺社今社B遺跡	珠洲市上戸町寺社	平地	奈良～平安	須恵器、土師器、近世陶磁器	1997年珠洲市教育委員会試掘調査
32	05080	寺社庵跡	珠洲市上戸町寺社	台地	中世	珠洲焼	
33	05081	寺社一本杉遺跡	珠洲市上戸町寺社	平地	古墳	土器	耕地整理中発見。
34	05084	寺社茶畑遺跡	珠洲市上戸町寺社	平地	中世	陶質土器	耕地整理の際出土。
35	05000	南方遺跡	珠洲市宝立町南方	平地	古代～中世	須恵器、土師器、珠洲焼、陶磁器、曲物底版、下駄、杵子形木製品	2001年(財)石川県埋蔵文化財センター発掘調査。
36	05083	永禪寺古墳群	珠洲市上戸町寺社	丘陵尾根	古墳	直刀、鉄鏃、能削製刀装具、鏃、胡・金具、人骨	枝番号が6番までである。
		永禪寺1号墳					永禪寺古墳群として市指定史跡。円墳(径20m、高1.2m)。粗製組合式石棺。1947年珠洲郷土史研究会発掘調査。
		永禪寺2号墳					円墳(径15～17m、高2.5～3m)。粗製組合式石棺。1947年九学能登調査会発掘調査。
		永禪寺3号墳					円墳(径10m、高0.5m)。
		永禪寺4号墳					円墳(径7m、高1m)。
		永禪寺5号墳					円墳(径22m、高2.5m)。
37	05082	寺社ちんちん堂中世墓遺跡	珠洲市上戸町寺社	台地縁端	中世	珠洲焼甕、人骨	
38	05079	永禪寺横穴群	珠洲市上戸町寺社	丘陵斜面	古墳	須恵器、刀子	3基確認。1975年珠洲市史編纂委実測。
39	05020	南方安楽藪遺跡	珠洲市宝立町春日野	平地	縄文	土器(後期)、磨製石斧	
40	05021	南方安楽藪B遺跡	珠洲市宝立町春日野	平地	古墳	土師器	
41	05077	寺社かめわり坂窯跡群	珠洲市上戸町寺社	丘陵	鎌倉	珠洲焼	2基確認。灰窯露呈。1963年石川県考古学研究会「能登総合学術調査」の一環で1号窯発掘調査。
42	05075	坊庵寺跡	珠洲市上戸町寺社	丘陵斜面	中世	珠洲焼燻骨器、人骨	
43	05075	坊中世墳墓群	珠洲市上戸町寺社	谷	中世		
44	05074	南方若栗遺跡	珠洲市上戸町南方	丘陵	縄文	磨製石斧	
45	05015	下鳥越じりめぎ遺跡	珠洲市宝立町春日野	丘陵	縄文	磨製石斧、打製石斧、凹石	
46	05016	春日野堂平遺跡	珠洲市宝立町春日野	台地	縄文	土器(後期)、打製石斧、磨製石斧	
47	05017	大島桜井宮司開墾畑遺跡	珠洲市宝立町春日野	台地	縄文	磨製石斧、石鏃	
48	05197	随念家裏山墓地	珠洲市上戸町南方	丘陵裾	中世	五輪塔残欠	地神
49	05018	大島南古墳群	珠洲市宝立町春日野	丘陵	古墳	須恵器、土師器、刀子、管玉	1基以上。1990年石川県立埋蔵文化財センター2基(1、2号墳)発掘調査。横穴式石室は宝立珠洲焼資料館へ移設。
		大島1号墳					枝番号が4番までである。
		大島2号墳					円墳(径12m、高3m)横穴式石室。
		大島3号墳					円墳(径7～8m、高1～1.5m)。
		大島4号墳					略円形隆起。
51	05198	権神社後方遺跡	珠洲市宝立町春日野	丘陵	中世	五輪塔残欠	
52	05199	大島遺跡	珠洲市宝立町春日野	丘陵	縄文	縄文土器、石匙	1990～91年珠洲市教育委員会発掘調査
53	05022	三杯焼窯跡	珠洲市宝立町春日野	丘陵	近世(江戸)		
54	05024	谷崎横穴群	珠洲市宝立町春日野	丘陵斜面	古墳	須恵器、子持長頸瓶、埴、広口壺、その他	11基以上。1975年珠洲市史編纂委実測。1991(5～11号墓)、92年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
55	05023	春日野大島窯跡	珠洲市宝立町春日野	台地	中世(鎌倉～室町)	珠洲焼	1996年飯田高校試掘調査。1991年富山大学発掘調査。
56	05025	金峰寺すんどん遺跡	珠洲市宝立町春日野	平地	縄文	土器	
57	05025	春日野正田畑遺跡	珠洲市宝立町春日野	台地	縄文	石鏃	単独出土。
58	05200	堂口家墓地	珠洲市宝立町春日野	丘陵	中世	五輪塔残欠	
59	05027	中野中世墓	珠洲市宝立町中野	丘陵	中世		径5m、高1m弱
60	05028	金峰寺かくない遺跡	珠洲市宝立町春日野	平地	縄文	土器	
61	05029	金峰寺竹川畠遺跡	珠洲市宝立町春日野	平地	縄文	土器(後期)、磨製石斧	単独出土。
62	05030	鶴飼三つ寺遺跡	珠洲市宝立町鶴飼	平地	平安	土師器、須恵器	
63	05031	三つ寺跡	珠洲市宝立町鶴飼	平地	不詳		
64	05202	鶴飼ツギザキ遺跡	珠洲市宝立町鶴飼	平地	奈良～平安	須恵器、土師器	1994年珠洲市教育委員会試掘調査。2000年(財)石川県埋蔵文化財センター発掘調査。
65	05032	南黒丸B遺跡	珠洲市宝立町南黒丸	平地	彌生、古墳、奈良、平安、中世	珠洲焼、須恵器、土師器	1996年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
66	05191	柏原ジツチン遺跡	珠洲市宝立町柏原	平地	弥生、古墳、奈良、平安、中世	弥生土器、土師器、須恵器、珠洲焼、石製品、木製品	2000年(財)石川県埋蔵文化財センター発掘調査。
67	05190	柏原ミツハン遺跡	珠洲市宝立町柏原	平地	弥生、古墳、奈良、平安、中世	弥生土器、土師器、須恵器、珠洲焼、石製品、木製品	2000年(財)石川県埋蔵文化財センター発掘調査。
68	05195	柏原助政遺跡	珠洲市宝立町柏原	平地	平安～中世	土師器、珠洲焼	1996年珠洲市教育委員会試掘調査
69	05195	加志波良比古神社遺跡	珠洲市宝立町柏原	平地	中世	五輪塔残欠、板碑	
70	05013	薬師堂跡	珠洲市宝立町柏原	平地	不詳		
71	05000	柏原A遺跡	珠洲市宝立町柏原	平地	縄文、古墳	珠洲焼、土師器、青磁、須恵器、陶磁器、石製品、木製品	2001年(財)石川県埋蔵文化財センター発掘調査。
72	05014	行人塚	珠洲市宝立町柏原	平地	中世		
73	05012	柏原垣内高瀬畑遺跡	珠洲市宝立町柏原	台地	縄文	土器(中期)、磨製石斧、打製石斧石鏃	1949年飯田高校試掘。

第1表 周辺の遺跡一覧

## 第3章 調査の成果

### 第1節 調査区の設定

調査区は排水路設置箇所を対象に、幅2m、総距離130m、面積260㎡である。グリッドは調査区南端部中央付近に任意に基準杭を設け、そこから北方向のセンターラインに10m間隔を基本に設定しており、調査区南側から1区として、北端が12区となる。ただし、調査区の制約上、1区は9m、7区は7m、12区は9mとする。なお、8区間は既存の用水路を生かす必要性から掘削は不可能であった。

### 第2節 基本層序

今回の調査では、調査区東壁等に6本のセクションを設定して層序観察を行った。基本層序は上層から耕作土の灰褐色粘質土、褐灰色砂質土、包含層の濁暗灰色粘質土と褐灰色粘質土、地山の淡灰色細砂である。包含層は第4図土層断面6・7・13・17層に対応しており、全区間で確認でき、その厚さは約30cmで、多量の自然木や木製品が混じる。また、土層断面図e-f間や9区間の地山層からは原位置を保っているかは不明であるが、大木の自然木が横倒しの状態で確認できた。地形は検出面で標高2.9～3.0mとほぼ一定の高さであり、顕著な高低差は確認できないが、周辺の地形をみれば、東方の丘陵部から西方の海側にかけて傾斜する。また、調査作業を遅滞させた要因の一つであるが、丘陵側から流れ込む水により調査区を含めた周辺は湧水地帯である。

### 第3節 遺構と遺物

遺構は全体的に密度が薄く、3～7区にかけての落ち込み、6区で小穴、溝を確認した他は9～11区にかけて小穴が散見されたにとどまる。遺構が最も多く確認できた6区は他の区間に比べて、地形がやや高く、小穴は直径、深さ共に約20cmの規模である。落ち込みはその東側を3～7区にかけて東方に緩やかに傾斜しており、検出面との高低差は約10cmである。

遺物は須恵器、土師器、珠洲焼、土埴、用途不明の木製品や部材等が出土しており、その大半が3～7区にかけての落ち込みと包含層からの出土であり、用途不明の部材は調査区のほぼ全範囲にわたって、包含層からも多量に出土していることから、原位置を保っている状態というよりも、周辺からの流れ込みの可能性が高いと考えられる。また、遺構から出土したものは極わずかであり小片のため詳細な時期を特定できた遺構はない。

土器は須恵器、土師器が圧倒的に多く、珠洲焼等の陶磁器が極少量出土しているが、土器自体の遺存率は低く、ほとんどのものが細片のものであるため、図化できたものは少ない。第5図1～7、9～13は須恵器坏、8は須恵器鉢、19、20は須恵器瓶である。坏は有台と無台のものがあり、口縁部が底部からやや直立ぎみに立ち上がり、端部でやや外反する1、2と底部からの立ち上がり外方に伸びる3～7、9～13に大別できる。2の底部外面にはヘラ記号が確認でき、4～7と13の底部内面はやや平滑を呈す。8は底部外面に多量の煤が付着している。19は底部から体部下位にかけての内面に自然釉が多量に付着している。20は頸部と体部の接点は認められなかったが、胎土観察等から同一個体の可能性が高い。掲載図以外のもので、底部外面に墨痕が確認できるものがあるが、遺存状態が悪いため判読が不可

能であった。

第5図15～18は土師器椀であり、底部に糸切り痕を残す。15と18は内面をミガキにより調整する。16は椀の底部に穿孔がなされたものであり、底部中心より若干ずれた箇所を開けられている。また、全体の遺物量に比して内黒土師器が定量認められた。

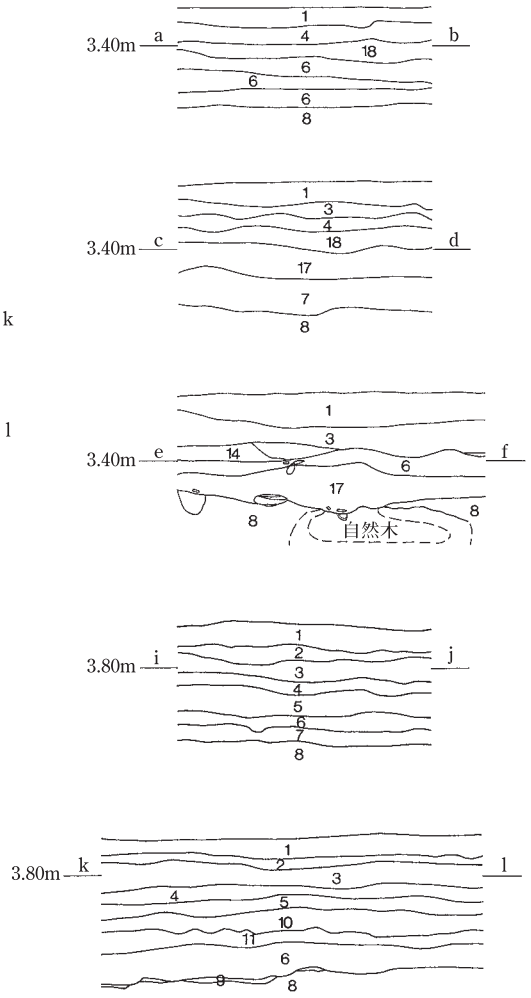
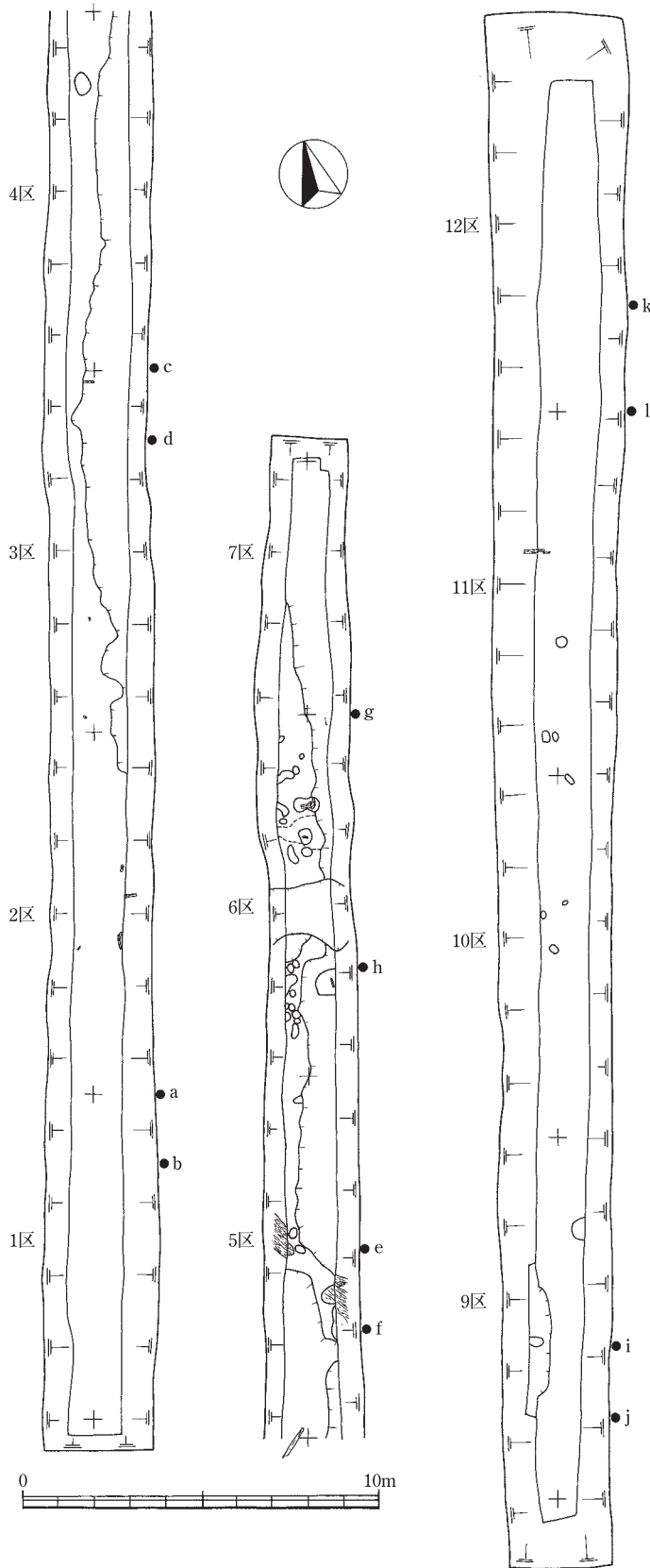
木製品は用途不明の部材も含め多量に出土しており、そのうち遺存状態の良いもの15点を図化した。第6図21～23は曲物底板である。24は皿である。25は連歯下駄であり、一木から台と歯を作りだしている。26は杓子形木製品であり、身の先端を直線的に作り、身幅は狭い。また、側面を直線的に加工する。第7図27は穿孔を施した板状の木製品であるが、遺存状態が悪いこと等から用途不明である。28も27と同様に穿孔を施した板状の木製品であり、穿孔は2孔1対であろうか。29は上部に抉りを入れ、側面を加工して頭部を作り出している。30は板の一端を一回り以上大きく釘頭状に作ったものであり、栓状を呈する。31～33は先端部を両側から削り込んで柄状とし、31はやや湾曲していること等から弓の可能性がある。34は板の一端片面を削りだしている。35は柄と刀身を表現しその間に段をつけている木製品であるが用途不明である。

## 第4節 ま と め

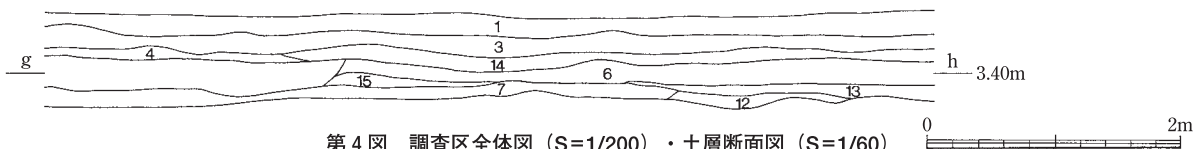
今回の調査では遺構密度が希薄であること等から詳細な遺跡像は把握できなかったが、遺構の状況や周囲の地形を考慮すると、遺跡の縁辺部にあたり、集落域は北西方に展開していたと考えられ、調査区は集落域の東限を示す可能性がある。今回検出した落ち込みは、東方の丘陵部から西方の海側にかけて傾斜している周辺地形に即した形で認められることから、調査区幅が2mと狭いため制約はあるが、自然地形という認識に立てば、海側へと低くなる過程における傾斜変換点とも考えられる。また、遺構がほとんど検出されていない1～2区、9～12区の地山層には腐植物が混じっており、常に滞水状態であったとも推定できる事から、調査区以東は低湿地としての様相を呈していたものと考えられ、調査区を東限とする集落域の存在が推定できる。

南方遺跡は丘陵と海に挟まれた狭小な場所に立地しており、古代から中世にかけての遺物が出土しているが、中心は8世紀から10世紀代と考えられる。周辺には古代の遺跡が所在し、特に、当遺跡から北東方向にかけての若山川以南に集中して認められる。官衙関連遺跡と考えられている北方E遺跡を始め、それと関連する北方B遺跡、北方C遺跡、北方D遺跡や寺社今社遺跡が7世紀～8世紀代を主体に12世紀まで展開しており、時期的に前後関係はあるものの、関連性が注目される。また、少量ではあるが珠洲焼等の陶磁器が出土している事から周辺での中世集落の存在も示唆できると考えられる。

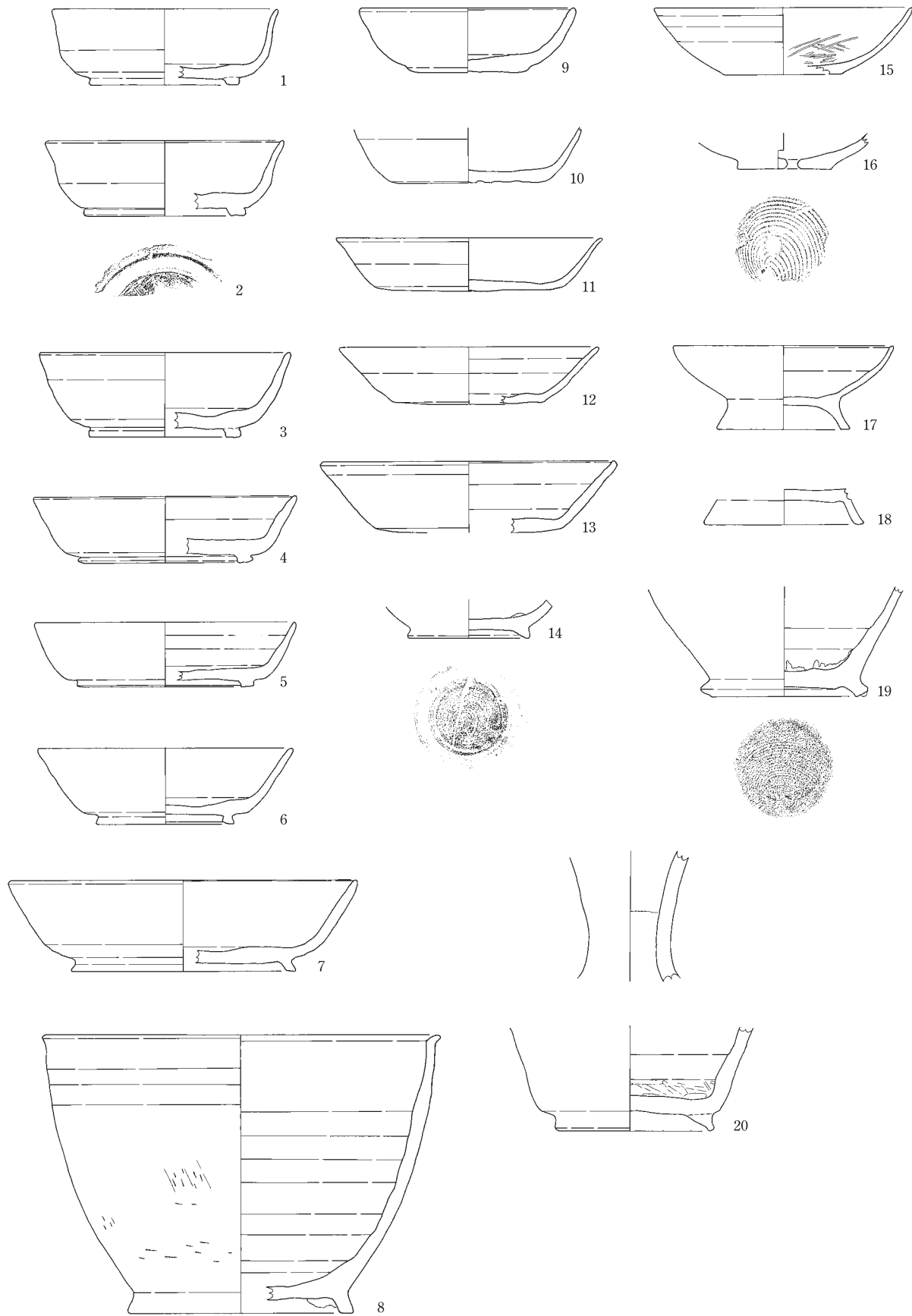
今回の調査では、時期を特定できた遺構がほとんどなく、特に、多量に出土した部材は包含層もしくは落ち込みからの出土であり、これらの時期や性格づけは厳しいものとなった。また、開発の多寡による調査件数にもよると思われるが、現在のところ、市南部飯田湾側に限って言えば、古代の遺跡は南方遺跡から若山川以南の間と舟橋川流域に集中しており、今後、遺跡周辺の調査報告により、南方遺跡の性格づけ、ひいては珠洲地域の古代史像が解明されていくであろう。



- 1 灰褐色粘質土(耕土)
- 2 濁褐色粘質土(炭粒混)
- 3 褐灰色砂質土(炭粒少量混)
- 4 褐灰色砂質土(3層土よりやや粘性あり)
- 5 褐灰色砂質土(3層土より暗い、やや粘性あり)
- 6 濁暗灰色粘質土(炭粒混、自然木・木製品入る)
- 7 褐灰色粘質土(6層土より砂粒子細かい、自然木・木製品入る)
- 8 淡灰色細砂
- 9 濁黒灰色粘土
- 10 暗褐色灰色砂質土
- 11 褐灰色砂質土
- 12 褐灰色砂質土
- 13 褐灰色粘質土(砂質土多量混)
- 14 褐灰色砂質土
- 15 暗灰色粘質土
- 16 暗灰色砂質土(炭粒混)
- 17 濁暗灰色粘質土(砂質土混)
- 18 灰褐色砂質土(やや粘性あり、炭粒少量混)

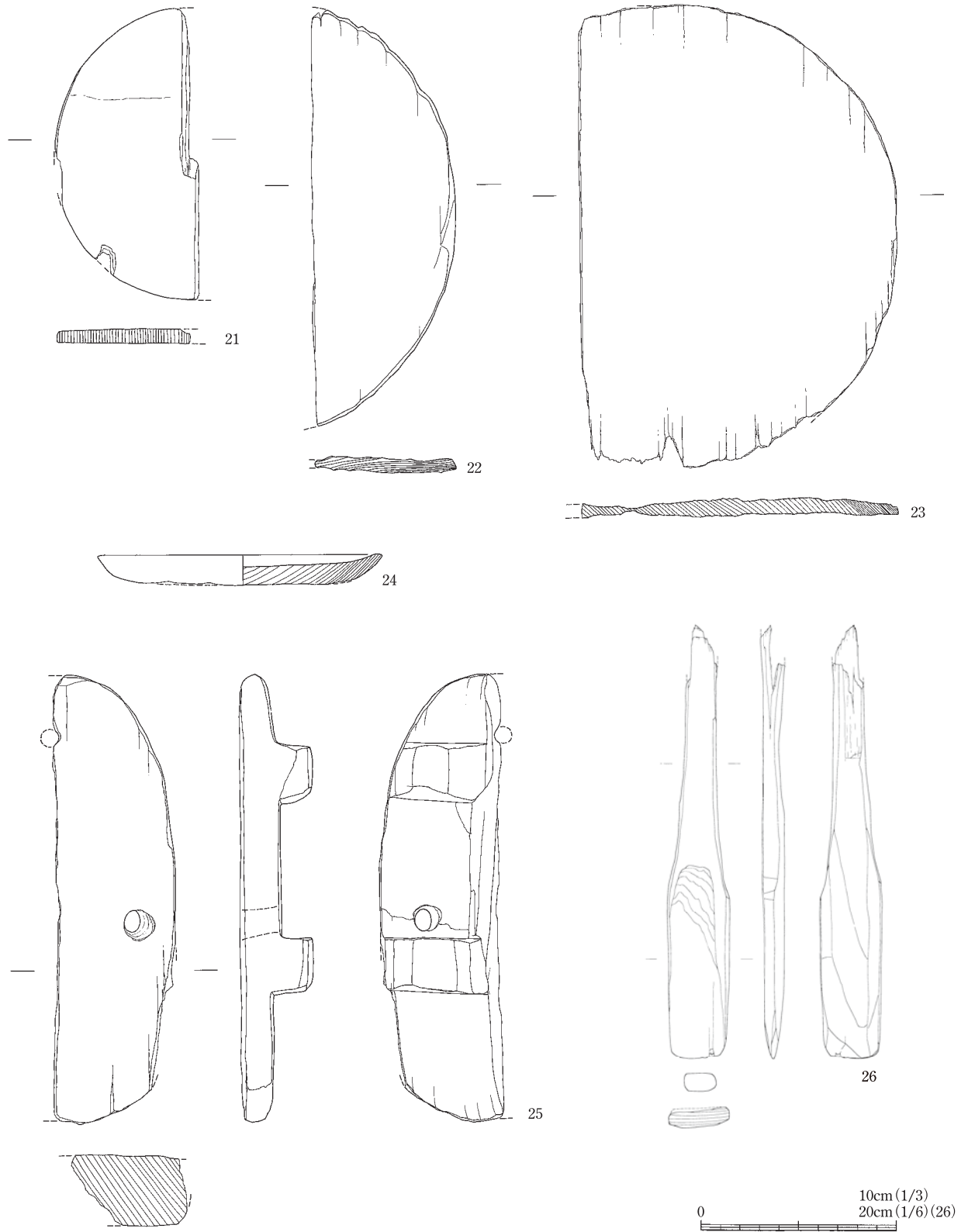


第4図 調査区全体図 (S=1/200) ・土層断面図 (S=1/60)



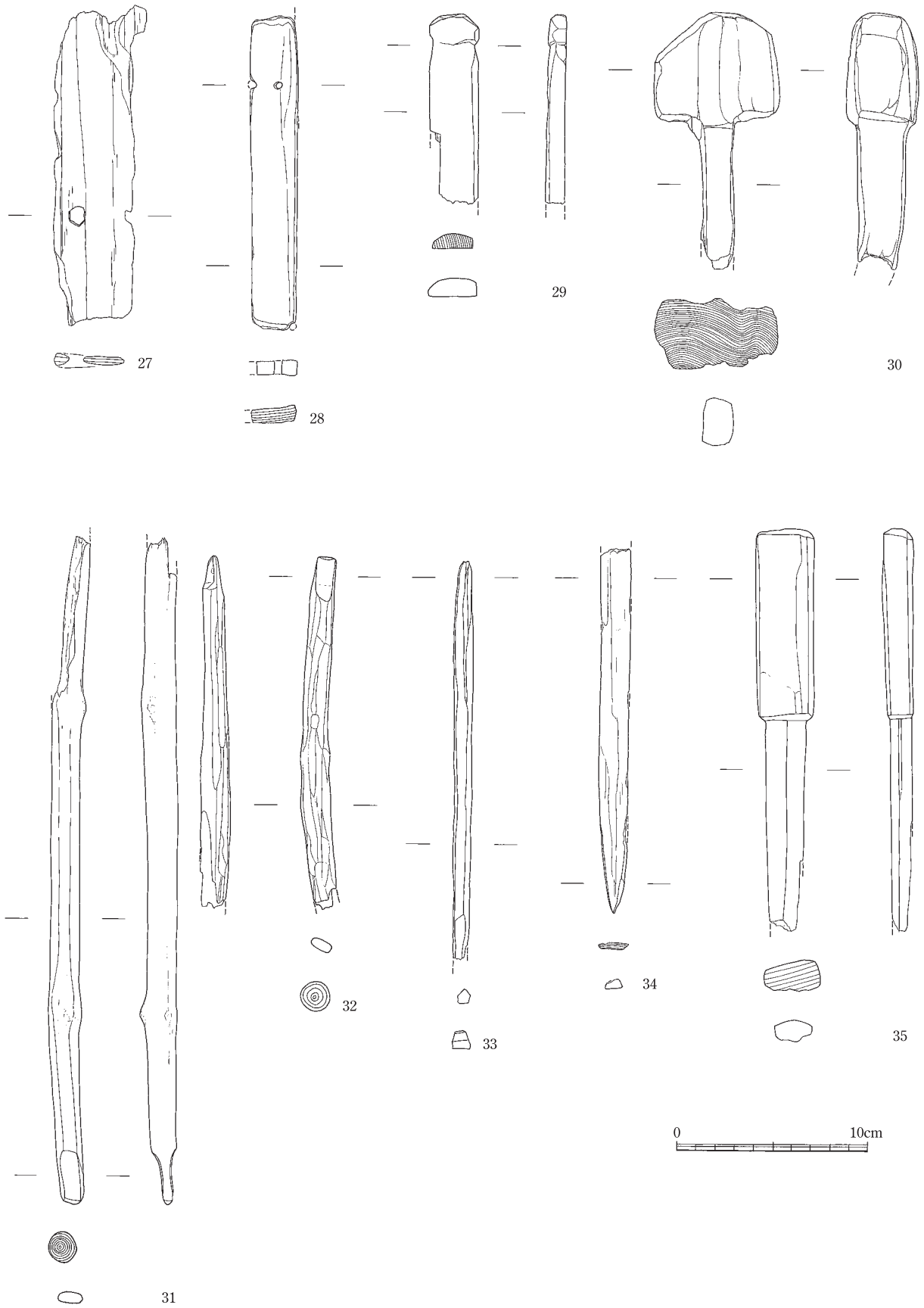
第5図 出土土器実測図 (S=1/3)





第6図 出土木製品実測図1 (S=1/3・1/6)





第7図 出土木製品実測図2 (S=1/3)

報告番号	実測番号	グリッド	遺構	種類	器種	法量(cm)			色調		調整		焼成	胎土	遺存率/35	備考
						口径	底径	器高	内面	外面	内面	外面				
1	D7	5区	排水溝	須恵器	有台环	11.8	7.8	4.0	灰	暗灰	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラ切り	良	粗砂(1~2mm)多、石ハゼ	口10底15	外底：一部工具痕？
2	D2	6区	検出面	須恵器	有台环	12.3	8.4	4.0	黄灰	黒灰	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ切り？	良	粗砂多、焼土塊含む、やや堅緻	口5底18	ヘラ記号有り、内外面：自然袖付着か？、外面：火ダスキ多
3	D1	6区	検出面	須恵器	有台环	13.0	8.0	4.5	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ切り	良	粗砂多、石ハゼ、焼土塊含む	口8底9	ヘラ切り後、高台付け
4	D3	6区	検出面	須恵器	有台环	13.5	8.5	3.5	灰	オリブ灰	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ切り、ナデ	良	礫微、粗砂多、石ハゼ	口5底12	自然袖付着、内面磨耗
5	D15	6区	排水溝	須恵器	有台环	13.5	9.2	3.4	灰	灰	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラ切り	良	礫(1mm前後)多	10	工具痕有り
6	D6	3区	落ち込み	須恵器	有台环	13.4	7.2	4.0	灰	暗灰	ロクロナデ、底：ナデ	ロクロナデ、底：ヘラ切り	良	粗砂(1~2mm)多	口4底10	重ね焼痕
7	D9	11区	包含層	須恵器	有台环	18.0	11.7	4.8	黄灰	灰	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ切り後回転ナデ	良	礫微、粗砂多	口6底18	歪み著しい
8	D19	7区	排水溝	須恵器	鉢	18.8	11.8	14.6	灰	暗灰	ロクロナデ	ロクロナデ、ケズリ、ロクロナデ	良	粗砂(1~3mm以下)、海綿骨針	口1以下底16	煤付着、付着物有り
9	D8	11区	検出面	須恵器	無台环	11.2	(6.5)	3.4	暗青灰	灰黄	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ切り	良	礫微、粗砂並、細砂並	口8底23	重ね焼痕(灰色)、自然袖付着
10	D14	5区	包含層	須恵器	無台环	11.8	8.2	(2.9)	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ切り	良	石英(1mm以下)、長石		
11	D16	5区	排水溝	須恵器	無台环	14.0	10.0	2.8	灰黄褐	灰	ロクロナデ	ロクロナデ、底：ヘラ切り	良	粗砂(1mm前後)、石英	口2底7	重ね焼痕
12	D12	5区	排水溝	須恵器	無台环	13.5	7.9	3.0	灰	灰	ロクロナデ	ロクロナデ、底：ヘラ切り	良	粗砂(1mm前後)	口8底12	重ね焼痕
13	D10	10~11区	排水溝	須恵器	無台环	15.3	9.8	(3.75)	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	良	礫微、粗砂多、海綿骨針、やや堅緻	口10底6	自然袖付着
14	D4	6区	包含層	陶器			6.2	(2.0)						粗砂多、焼土塊少	底ほぼ完形	摩耗気味、目痕
15	D18	4区	落ち込み	土師器	無台碗	13.5	6.0	3.5	黒	灰白	ミガキ	ロクロナデ、糸切り	良	粗砂(0.5mm以下)、海綿骨針	口3底13	
16	D20	不明	表土除去	土師器	無台碗		4.9	(1.9)	灰黄	灰黄	ロクロナデ、底：ヨコナデ	ロクロナデ、底：糸切り	良	粗砂(0.5mm以下)、海綿骨針	外底：完形	穿孔、穴径0.5cm
17	D5	10区	包含層	土師器	有台碗	11.4	7.0	4.4	浅黄橙	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ、底：糸切り	良	粗砂(1mm前後)、海綿骨針	口3底18	
18	D17	4区	包含層	土師器	有台碗or皿		8.4	(1.9)	黒	浅黄橙	ミガキ	ロクロナデ、糸切り	良	粗砂(0.5mm以下)、海綿骨針多	底11	外底：煤付着
19	D13	5区	包含層	須恵器	瓶？		8.8	(5.8)	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ、回転糸切り	良	石英少、長石		自然袖付着、焼き膨らみ有り
20	D11	4~5区	包含層	須恵器	長頸瓶？		8.3	(5.5)	褐灰	灰	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	良	海綿骨針、石英、長石		

第2表 土器観察表

報告番号	実測番号	グリッド	遺構	器種	法量(cm)			備考
					最大長	最大幅	最大厚	
21	4	3区	包含層	曲物底板	14.8	6.9	0.75	
22	9	5区	排水溝	曲物底板	21.3	7.4	0.9	状態不良
23	1	5区	包含層	曲物底板	23.7	(16.4)	0.95	
24	2	4区	落ち込み	皿		口径14.0	器高1.5	
25	6	4区	包含層	下駄	(22.9)	(6.3)	(3.8)	
26	8	3区	包含層	杓子形木製品	44.4	6.3	2.5	
27	10	6区	包含層	部材	16.1	4.2	0.6	穿孔
28	15	3区	落ち込み	部材	16.5	2.5	8.5	2孔1対か
29	5	3区	包含層	部材	9.9	2.6	1.0	
30	12	1区	排水溝	部材	(13.5)	6.6	3.8	栓状木製品か
31	13	5区	包含層	部材	35.0	2.0	2.0	弓か
32	14	1区	包含層	部材	18.5	1.6	1.6	弓か
33	7	4区	包含層	部材	(20.9)	(10.05)	(0.95)	
34	3	6区	落ち込み	部材	19.1	1.6	0.5	
35	11	4区	包含層	部材	21.1	3.1	1.6	

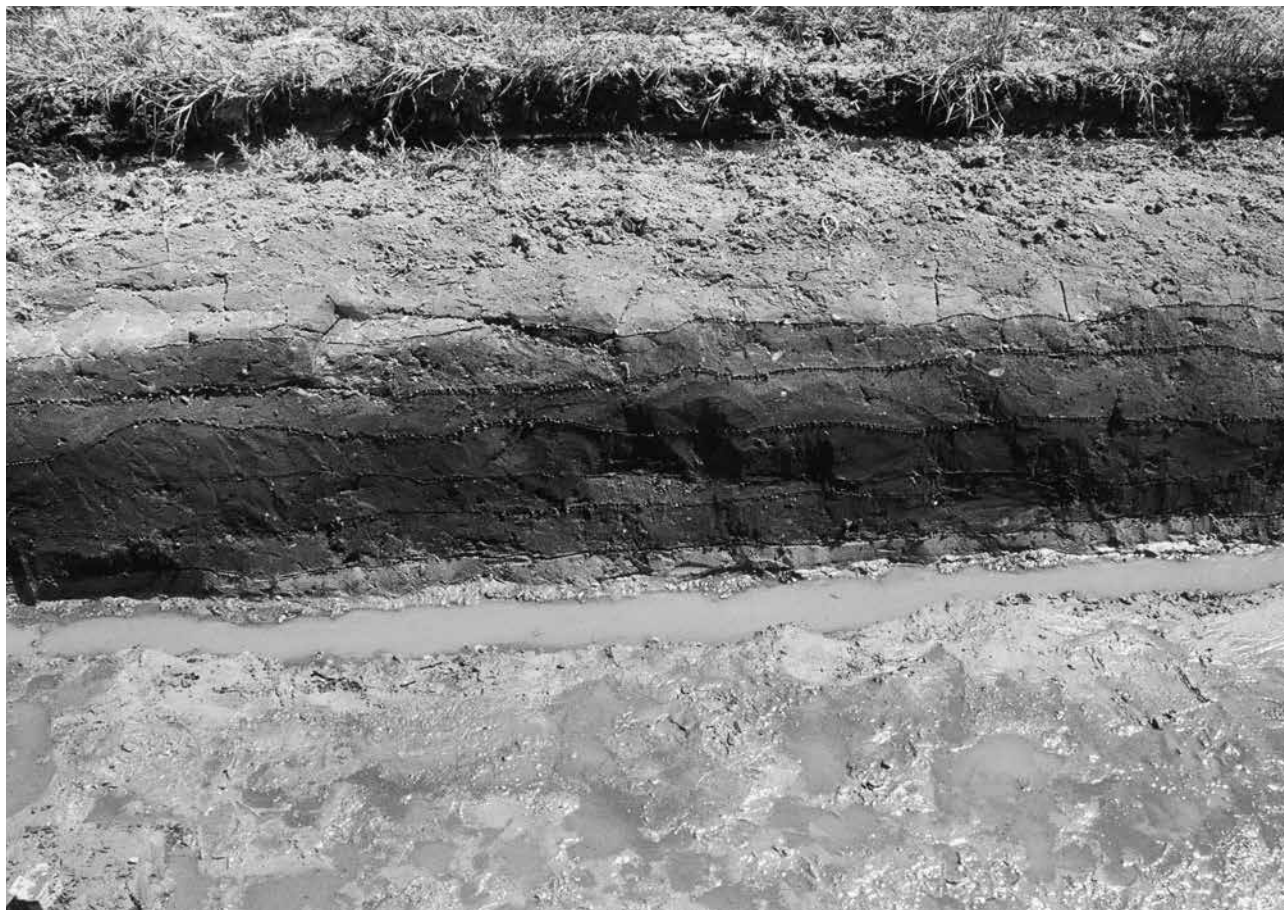
第3表 木製品観察表



4区 遺物出土状況



6区 遺物出土状況



1区 調査区東壁土層断面（西から）



3区 調査区東壁土層断面（西から）



6～7区 調査区東壁土層断面（西から）



9区 調査区東壁土層断面（西から）



12区 調査区東壁土層断面(西から)



3～5区 完掘状況(南から)



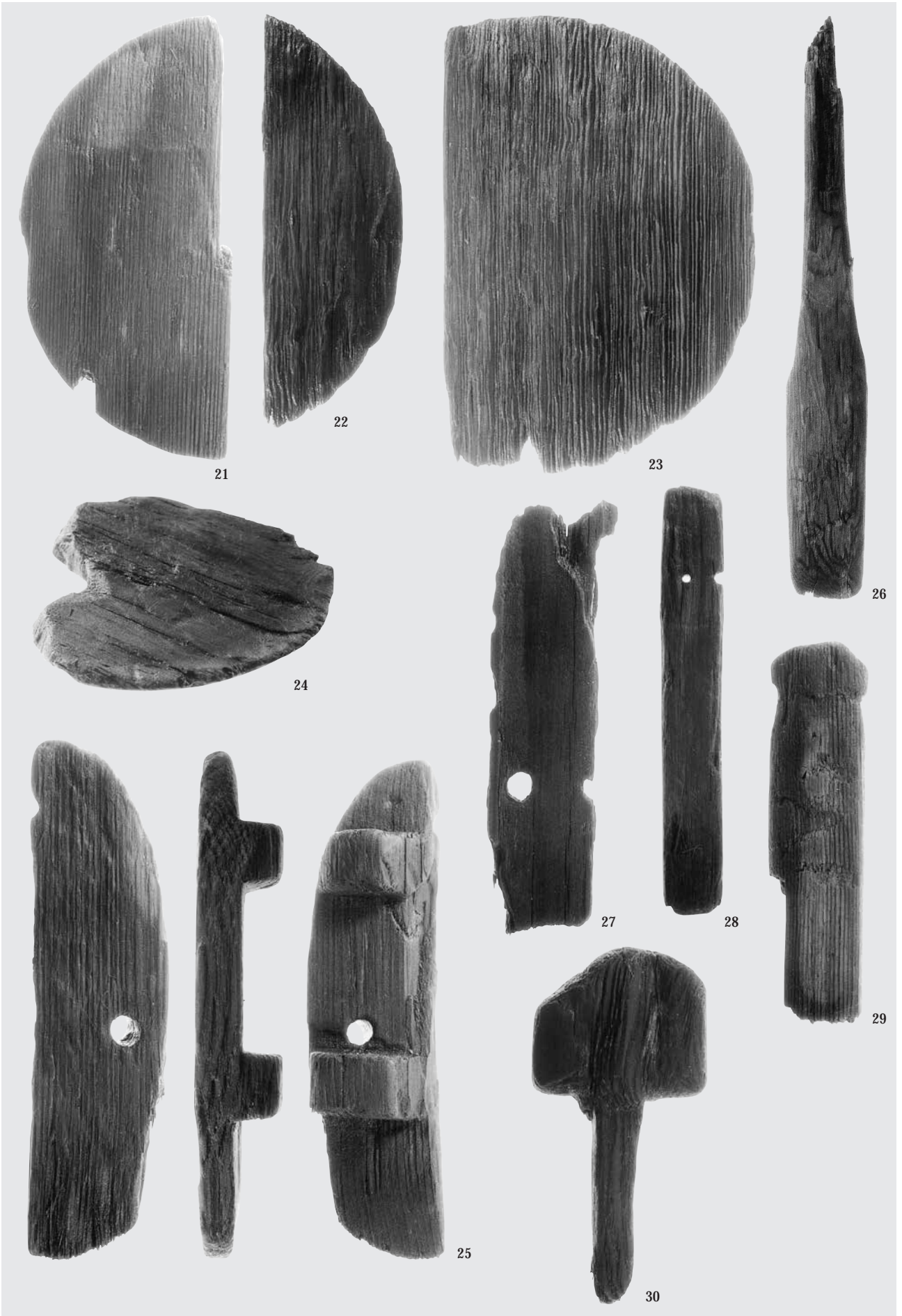
6～7区 完掘状況（北から）

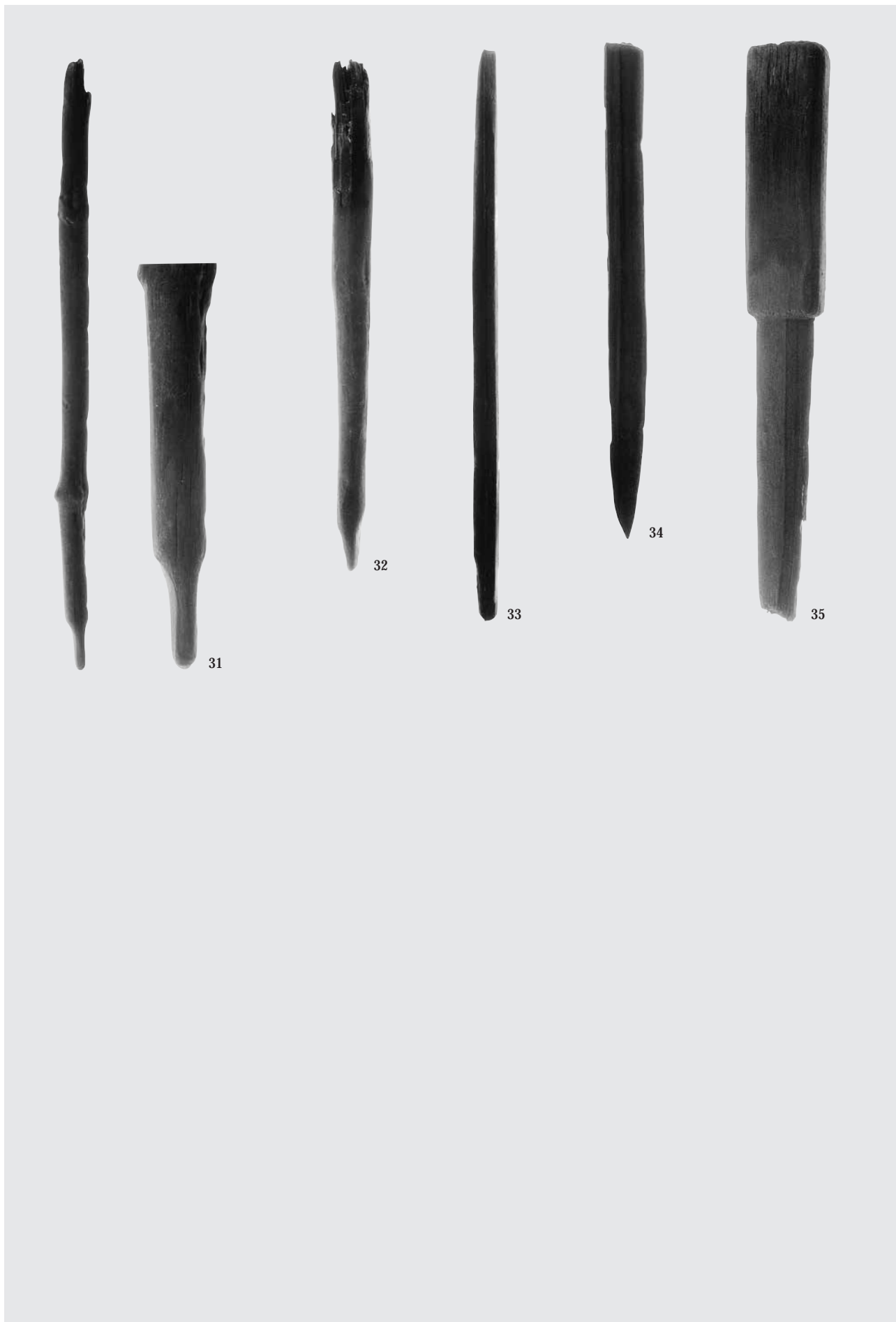


9～12区 完掘状況（南から）









# 報告書抄録

ふりがな	すずしみなみかたいせき							
書名	珠洲市南方遺跡							
副書名	県営ほ場整備事業（上戸地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	宮川勝次							
編集機関	財団法人石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL076-229-4477							
発行機関	石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	平成17年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 (新)	東経 (新)	調査期間	調査面積	調査原因
みなみかた 南方遺跡	いしかわけん 石川県 すずし 珠洲市 うえどまちのみかた 上戸町南方	17205		37度 25分 17秒	137度 14分 47秒	20010803 ～ 20010905	260㎡	県営ほ場整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
南方遺跡	集落跡	古代 ～中世	溝、小穴	須恵器、土師器、珠洲焼、下駄、杓子形木製品				
要約	今回の調査では遺構密度が希薄であること等から詳細な遺跡像は把握できなかったが、遺構の状況や周囲の地形を考慮すると、集落域は調査区の北西方に展開していたと考えられる。周辺には官衙関連遺跡と考えられている北方E遺跡等が存在しており、関連性が注目される。							

## 珠洲市 南方遺跡

発行日 平成17（2005）年3月31日

発行者 石川県教育委員会

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

電話 076-225-1842（文化財課）

財団法人石川県埋蔵文化財センター

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

電話 076-229-4477

E-mail address mail@ishikawa-maibun.or.jp

印刷 株式会社ハクイ印刷